

学生評論

Student Review

大学

DAI GAKU

【復刻版】戦後文化運動雑誌叢書⑮
学生評論・季刊大学・大学
全10巻・別冊「戦後学生雑誌と学生運動」

- ◎ 編集・解説＝中西直樹（龍谷大学教授）
- ◎ 推薦＝西山 伸（京都大学教授）



不二出版

戦争による荒廃と不況のなか、大学の自由を求めて苦闘した学生たちの知的動向を伝える
戦後学生運動史の重要資料、
『学生評論』『季刊大学』『大学』をついに復刻！！

- ◎ 配本 第1回配本・全3巻 第2回配本・全3巻＋別冊1 第3回配本・全4巻 【『学生評論』1～16号】 【『学生評論』18～27号】 【『季刊大学』／『大学』】
- ◎ 底本 『学生評論』（学生書房ほか）1946年10月～1951年5月 『季刊大学』（帝国大学新聞社出版部ほか）1947年4月～1948年9月 『大学』（大学文化社ほか）1947年5月～1948年9月
- ◎ 体裁 A5判・B5判／上製／総約4040頁
- ◎ 揃本体価 202,000円＋税

【復刻版】戦後文化運動雑誌叢書⑮
学生評論・季刊大学・大学
全10巻・別冊1

- ◎ 編集・解説＝中西直樹（龍谷大学教授）
- ◎ 推薦＝西山 伸（京都大学教授）
- ◎ 体裁＝A5判・B5判／上製／総約4,040頁
- ◎ 揃本体価＝202,000円＋税

内容・配本予定

配本	書名・巻数	原誌号数 ※	原誌発行年月	本体価格／刊行予定 等
第1回配本	『学生評論』第1巻 『学生評論』第2巻 『学生評論』第3巻	再刊第1号～第4号 再刊第5号～第10号 再刊第11号～第16号	1946年10月～47年3月 1947年6月～48年3月 1948年5月～49年1月	本体 57,000円＋税 2020年2月予定 ISBN978-4-8350-8341-4
第2回配本	『学生評論』第4巻 『学生評論』第5巻 『学生評論』第6巻 別冊	再刊第18号～通巻第21号・別冊「受験特集号」 通巻第22号～第24号 通巻第25号～第27号 解題・総目次・索引	1949年6月～50年1月 1950年1月 1950年2月～50年6月 1950年10月～51年5月	本体 57,000円＋税 2020年6月予定 ISBN978-4-8350-8345-2
第3回配本	『季刊大学』第1巻 『季刊大学』第2巻 『大学』第1巻 『大学』第2巻	第1号～第2号 第3・4号～第6号 第1巻第1号～第2巻第2号 第2巻第3号～第2巻第9号	1947年4月～47年7月 1947年11月～48年9月 1947年5月～48年2月 1948年3月～48年9月	本体 88,000円＋税 2020年9月予定 ISBN978-4-8350-8349-0

※ 各誌号数表記は混乱がみられるが、ここでは便宜的に一部を統一した。

お薦め先 —— 学生運動史、文化史、大学教育史、近現代史、日本思想、日本文学等の研究者、大学・公共図書館。

【復刻版】学園評論 全9巻・付録1・別冊1 戦後文化運動雑誌叢書⑮

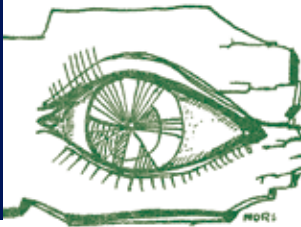
- ◎ 解題＝中西直樹
- ◎ 揃本体価＝170,000円＋税
- ◎ 推薦＝宇野田尚哉・西山 伸
- ◎ 原本提供＝花園大学図書館・京都大学大学文書館
- ◎ 体裁＝A5判／上製／総約4,230頁
- ◎ 別冊＝解題・総目次・索引（本体価2,000円＋税）※残部僅少
ISBN978-4-8350-7014-8

『学園評論』全9巻・付録1

配本	書名・巻数	原誌巻号数	原誌（本）発行年月	本体価格／刊行年月
第1回配本	第1巻 第2巻 第3巻	第1巻第1号～第1巻第3号 第1巻第4号～第2巻第3号 第2巻第4号～第3巻第2号	1952年7月～52年10月 1952年11月～53年6月 1953年8月～54年2月	本体 51,000円＋税 2011年7月刊行 ISBN978-4-8350-7000-1
第2回配本	第4巻 第5巻 第6巻 別冊	第3巻第3号～第3巻第8号 第3巻第9号～第4巻第1号 第4巻第2号～第4巻第7号 解題・総目次・索引	1954年3月～54年7月 1954年8月～55年1月 1955年2月～55年7月	本体 51,000円＋税 2012年1月刊行 ISBN978-4-8350-7004-9
第3回配本	第7巻 第8巻 第9巻 附録	第4巻第8号～第5巻第1号 第5巻第2号～第5巻第5号 ※ 第5巻第3号より『学生生活』と改題 第5巻第6号～第5巻第9号 『わだつみに誓う 京大天皇事件の記録』（京都大学同学会・全日本学生新聞連盟共編、学園評論社） 『もう黙ってられない 東大事件はこれからもおこる』（学園評論編集部編、学園評論社） 『日本学生詩集 ささやくように』（東京都学生文学懇談会・学園評論編集部編、理論社） 『水爆よりも平和を』（京大水爆問題協議会・学園評論社編・発行） 『世界の学生運動の新しい方向 第9回国際学連評議会報告・勧告集』（祖国と学問のために編、学園評論社）	1955年8月～56年1月 1956年3月～56年7月 1956年8月～56年11月 1951年12月 1952年4月 1953年4月 1954年7月 1954年8月	本体 68,000円＋税 2012年7月刊行 ISBN978-4-8350-7009-4

振替 東京都市大学水道2-1010
FAX 03-56981670
TEL 03-56981670
〒112-0005

不二出版



カット：井手則夫
（『学生評論』再刊13号、
1948年8月）より

戦前から脈々と息づいてきた学生運動の精神は、戦後の混乱のなかでいかにして
甦ったのか？ 『学生評論』『季刊大学』『大学』に併せ、すでに小社が復刻した
『学園評論』の解説、総目次等も再録した戦後学生雑誌を一望するための必読書！

別冊『戦後学生雑誌と学生運動』
体裁＝A5判並製・約290頁 本体価＝2,500円＋税
ISBN978-4-8350-8354-4（第2回配本に含む。分売可）

※『学園評論』別冊の増補改訂版となります。

※ 収録内容、刊行時期は変更となる場合がございます。



表示価格はすべて税別

復刻版『学園評論』に続く、待望久しい学生運動史シリーズ!!

● 復刻にあたって

終戦直後の荒廃のさなか、学問の自由と自治をふたたび失うまいという強い決意のもと、京大事件に前後して廃刊に追いやられた雑誌『学生評論』の復活がさげばれ、再刊されてゆく――。

G H Q 占領下、日本国憲法発布、二・一ゼネスト、サンフランシスコ講和と目まぐるしく転変する時代のなか、自由と知的探求に飢えた学生たちの糧となり力ともなった代表的学生雑誌『学生評論』『季刊大学』『大学』をここに復刻する。私たち不二出版はすでに、『学生評論』の後継誌である『学園評論』を復刻、戦後から高度経済成長へと続く日本社会の変容を鋭敏に反映した学生雑誌研究の端緒を切り開いた。当時の学生たちの論考、投稿はもとより、卒業後の職場報告、紀行文、生活、恋愛など多彩な実情を伝える『学生評論』、さらに東京大学社会科学研究所のメンバーをはじめとした、第一級の知識人を執筆陣に擁する総合的学術・文化誌『大学』『季刊大学』を復刻することで、戦後の知的状況が浮き彫りとなるだろう。

不二出版

◇ 刊行の辞 ◇

中西直樹

『学生評論』『学園評論』『学生生活』は、戦後雑誌ブームのなかで、学生を主たる読者とし、学生主体で編集発行された学生雑誌の代表的な存在であった。『学生評論』と『学園評論』『学生生活』の間には編集方針で若干の断絶があったものの、一貫して全国学生自治会総連盟（全学連）と深い関係を有し、約十年にわたって刊行された。戦後の学生動向と初期の学生運動の実態を知る上で第一級の史料である。（……）

今般、不二出版の船橋治会長から復刻のお話があり、『学生評論』に加えて、『季刊大学』『大学』も復刻する運びとなった。戦後大学史の研究は、とりわけ大学人が、専門領域を超えて取り組みねばならない課題であると信ずる。しかし、その検証作業の前提となる資料は散逸しつつあり、公表も進んでいない。『学生評論』『学園評論』のような学生雑誌も分散と破損が著しい。このたびの復刻事業が、戦後大学史の研究発展の一助になることが願われる。（はしがき）より）（なかにし・なおき 龍谷大学文学部教授）

「運動史」にとどまらぬ期待

二〇一一年から一二年にかけて復刻された『学園評論』に続き、今回、『学生評論』『大学』『季刊大学』が復刻されることになった。かつて『学園評論』が復刻されたとき、私は一九五〇年代前半の学生運動における「歴史の空白期」を埋めるものとして期待を表明したことがあった。学生運動に対する日本共産党の影響力が強まるなか、それへの反発も含めた学生たちのリアルな反応が垣間見られるのではないかと思ったからである。この『学生評論』においても、一九五〇年の共産党分裂前から共産党中央と全学連が緊張関係にあった様子、あるいは党分裂以後のさまざまな動きなど、あくまで全学連の立場からではあるが、語られているところは多いと思われる。

ただ、今回の復刻においてもこうした運動史に関する期待はもちろんあるが、それだけではない。『学生評論』が再刊された一九四六年一〇月とは、

西山 伸

高等教育の観点からすると、敗戦の後始末に関することは終わりに近づき、新しい学制に向けての動きが始まった頃にあたる。授業料値上げ問題、大学法試案要綱に象徴される大学管理問題、旧制教育機関統合による新制大学発足の問題、等々に学生たちがどのように向き合おうとしたのかといったことについても何か見えてくるものがあるのではないか。また、私個人としては、学徒出陣世代とこの時期の平和運動を担っていく世代との関係性に興味があるので散見される『きけ わだつみのこえ』関連の文章も読んでみたい。その一方で、「国立大学受験特集号」といった、まるで受験雑誌のような号が出ているのも面白い。あるいは多くを大学教員が執筆した『季刊大学』をひもとけば、敗戦直後の学界、学問の様子が窺えそうである。

併せても五年弱という短い期間の刊行物だが、さまざまな角度から読み解くことができるのではなからうか。

（にしやま・しん 京都大学大学文書館教授）

各誌の主な内容

『学生評論』

再刊の辞

『学生評論』は今からちょうど十年前の一九三六年、京大事件以来学問の自治、ならびに学問の自由を失った大学において、京大事件の流れを汲む学生が、滔々たるファシズムの台頭に「文化の擁護」と「自由の防衛」をめざす学生文化運動の一翼として（……）創刊したものである。（……）去る五月二十六日の京大事件記念学生祭、七月十九日の自治確立学生大会等において結集された学生の間には、今度こそ目をさまして、学問の自由を守り通す決意がみなぎっていた。

今ここに、往年の「学評」育ての親である先輩諸兄のご指導を得て再生した本誌は、学生の生活に密着し、学生の心にくいこみ、真にその名に背かぬ、学生生活を充実する為の雑誌であらねばならぬと同時に、あの暗黒の時代にあった、真理と自由の最後の一線を死守したすぐれた先輩の伝統の継承者として、現在進行しつつある民主主義革命の一翼を担わなければならない。

（『学生評論』創刊号より）

【目次より】

（『学生評論』再刊一号、一九四六年一〇月一日発行）
社会科学を如何に学ぶべきか 大河内一男／自由のための闘ひ 羽仁五郎／自然科学と政治 武谷三男／貴方は何が読みたいか―積極的に御投書下さい 学生書房／戦争抛棄への道上 田誠吉／アインシュタインのきた前後（私の学生の頃その二） 高島善哉／我等の発言―官私学の撤廃について 船橋尚道／学生と失業問題 佐原洋／女子学生の感懐 宇治千枝子／新文学の創造を阻むもの―文学と戦争責任 木曾隆三／アメリカの復員学生（海外学生情報その二） 高橋啓／闘争より闘争へ（先輩の職場報告その二） 増山太助 ほか

『季刊大学』

創刊の言葉

（……）本誌は旧いアカデミズムの殻を打ち破り、真に人民大衆を基盤とする文化・学問の創造の一翼たらねばならない。そしてこの厳しく進みつつある我が国の民主革命の一線につらねばならない。そして若き世代と共に歴史創造の力たらねばならないのである。

（『季刊大学』創刊号より）

【目次より】

（『季刊大学』一号、一九四七年四月一五日発行）
近代化の歴史的起点―所謂「民富」の形成について 大塚久雄／基幹産業の現状分析と今後 産業復興会議（編）／日本労働運動の性格と課題 氏原正治郎／学問の新たな在り方―混乱の時期に於ける学界の任務 飯塚浩二／農民層の分解に関する最近の一見解―青年学徒えの手紙 豊田四郎

〔学界時評〕 政治学（今中次麿）／行政学（辻清明）／法学（木村亀二）／数学（遠山啓）／物理学（武田栄一）／生物学（碓井益雄）／建築学（生田勉）／哲学（小松摂郎）／史学（豊田武）／社会学（福武直）／理論経済学（横山正彦）／社会経済史学（田代正夫）／経済政策（安藤良雄）／社会政策（隅谷三喜男）／農業経済学（大内力）／「人民の中へ」と人間の自覚（岩間徹）

『大学』

創刊の言葉

あの苛烈な戦争が行われていたとき、悲しい運命と知りつゝも自己の延命を宿命として闘い続けたのは誰であったか、遙かなる理想も、火の様に燃えさかる青春も、ただ民族に捧げて黙々と死んでいったのは誰であったか。

それこそが青年学徒ではなかったか、勿論特攻隊に参加した学徒たちも、真理により忠実であろうとすればするほど限りなき苦悩にさいなまれないではなかった。

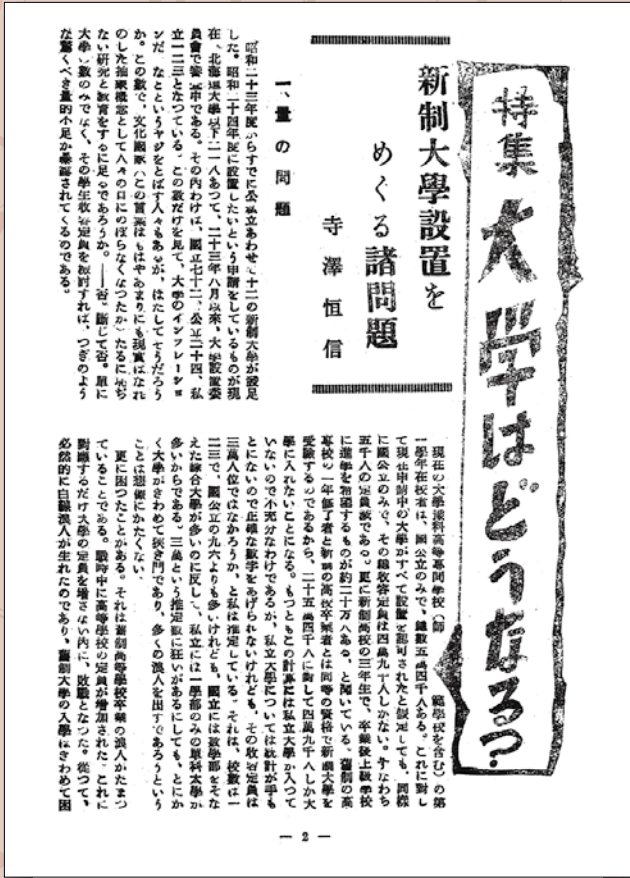
（……）われわれはいま同志と共に雑誌『大学』を創刊した。学生生活の改革と、諸君たちの研究論文の発表機関誌として、また学徒の教材的使命をもあわせて遂行したいと念じている。

（『大学』創刊号より）

【目次より】

（『大学』一卷一号、一九四七年五月一日発行）
科学における共同と哲学における自由 所雄章／日本の学問の分析―日本的性格に就いて 長谷川明雄／根瘤菌 大槻勝／質す心と批判の眼―アメリカ研究 以前の常識 細入藤太郎／ハイスケールとカレデの生活―アメリカ 石田アヤ／学生と国語問題 柴田武／変り種教授―金田一京助博士 編集部／哲学

内容見本



『学生評論』再刊第16号（1949年1月）



『大学』第2巻第9号（1948年9月）

戦後の巨大なうねりのなかで、苦闘する学生雑誌の歩みを追う！

『学生評論』『季刊大学』『大学』関連年表

	学生評論	季刊大学	大学	時期区分と流れ	関連する出来事
1946.10.	1号			学園民主化闘争	45.11 都下学生連合会、京都学生連盟結成。 46.3 学生書房設立。 21.5 京大事件記念学生祭。 46.5 関東学生社研連結成（事務所・学生書房）。 46.7 全国大学高専学生連合会関東支部結成。 第1回自治権確立学生大会、参加26校。 46.11 全国大学高専学生連合会、全国学生自治会連合（全国自治連）として改組、再出発。 47.1.31 学高専連合学生大会、40校3万人が参加して学生の自治権確立等を要求。 47.2.1 セネスト禁止令。日本共産党、挑発の全国行動をひかえ地域人民戦術に転換。
1946.11	2号				
1947.1.	3号				
1947.3.	4号				
1947.4.		1号			
1947.5.			1-1号		
1947.6.	5号		1-2号		
1947.7.	6号	2号			
1947.8.			1-3号		
1947.9.	7号		1-4号		
1947.10.			1-5号		
1947.11.		3-4号			47.11 全国国立大学学生自治会連盟（国学連）結成。
1947.12.	8号		1-6号	教育防衛闘争	48.1 日本共産党、東大細胞再建。 48.3 大学管理理想法案（BT案）発表。 48.6.1 関東自治連・国学連主催、教育復興学生決起大会。60数校2万名が参加。 48.6.26 学生運動史上初の全国ゼネスト、114校20万人参加。 48.9 全国学生自治会総連盟（全学連）結成大会。全国148校代表250名参加。 48.10.8 文部次官、学生運動禁止を通達。秋田師範・長野師範・日大三島予科等で弾圧事件。 49.1 日本共産党、国政選挙で35人当選。全学連に対する日本共産党の地域人民闘争戦術の強要強まる。 49.5.24 全学連全国統一スト、139校20万人参加。吉田内閣、大学法案の国会上程を断念。 49.7.19 CIE教育顧問のW.C.イールズ、「共産党員の教授は大学を去るのが適当」と演説（イールズ声明）。以後、レッドパージ、学生自治会の弾圧実施。 50.1.5 コミンフォルム、日本共産党主流派の「占領下における平和革命コース」を全面批判。 50.5 マッカーサー、日本共産党非合法化示唆。 50.4-11 反イールズ・レッドパージ反対闘争＝日本学生運動の真面目を発揮。 50.6.3 労学ゼネスト、イールズ声明反対、反帝平和を掲げ、全国43自治会参加。 50.6.6 マッカーサー、日本共産党中央委員24名を公職追放。 50.6.27 全学連指導的學生38名除名（日本共産党と全学連とは敵対関係）。 51.8 コミンフォルム、所感派支持を表明。 52.1.25 「学園評論」発刊発起人会。
1948.1.	9号		2-1号		
1948.2.			2-2号		
1948.3.	10号	5号	2-3号		
1948.4.			2-4号		
1948.5.	11号		2-5号		
1948.6.			2-6号		
1948.7.	12号		2-7号		
1948.8.	13号		2-8号		
1948.9.		6号	2-9号		
1948.11.	14号				
1948.12.	15号				
1949.1.	16号			反帝・平和闘争	
1949.6.	18号				
1949.9.	19号				
1949.10.	20号				
1949.12.	21号				
1950.2.	22号				コミンフォルム批判による日本共産党分裂が、全学連分派生む。
1950.4.	23号				イールズ声明・レッドパージに対抗して反帝・平和闘争を展開。
1950.6.	24号				
1950.10.	25号				8号(26.3) 武井・南、関西学連執行部の「右翼日和見」派を批判。
1951.3.	26号				
1951.5.	27号				

※ 『学生評論』巻号数等は、便宜的に小社にて連番の号数で統一した。

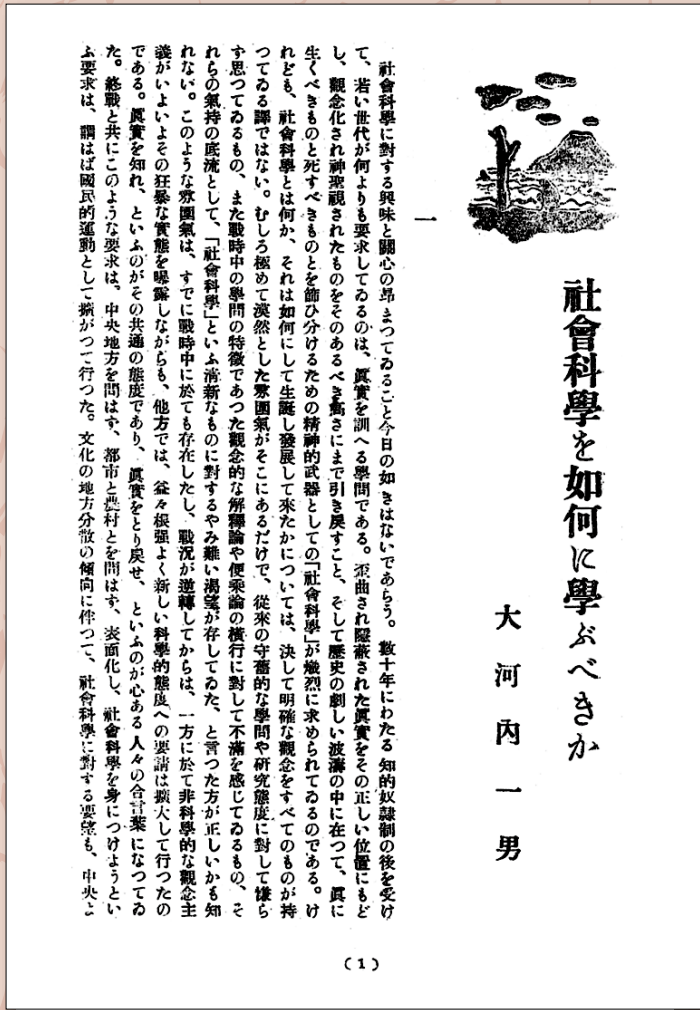
※ 『学生評論』第17号は欠号。

作成：中西直樹



「文化時評」文学（野間宏）／美術（鈴木進）
／新劇（下村正夫）／音楽（園部三郎）／映画（青山敏夫）
モラリストの精神とその限界 森有正／東大に二研究所新設（新聞研究所／社会科学研究所）／大学受難廿年小史 ほか

研究の榮 柳田謙十郎
「対談」学問と政治と生活―象牙の塔から民衆の大学へ 本多顕彰 ほか
学生生活の将来 中島健蔵
（随筆）旅の落穂／（詩）桃、焦土の青春、雪と梅／（創作）再会 ほか



『学生評論』再刊第1号（1946年10月）



『大学』第1巻第4号（1947年9月）